

玉野市の先生これだけは!

授業実践のポイント! (授業のユニバーサルデザインの視点から) ~わかった、できた、楽しい!を実感できる授業を目指して~

1 魅力ある授業は魅力的な教師の人間性から!

長時間授業を受ける児童生徒の授業に対する学習意欲は、教師の表情や口調、動き、適切な服装等から感じられる人間的魅力に大きく影響されます。魅力的な人間性を伝えていくのが授業の第一歩、児童生徒の心を開くのは教師の人間性です。

2 明るく元気よく教えたい意欲を伝えましょう!

教師が意欲的でなければ、児童生徒は学習意欲を持ちません。「みんなに教えたいな! さあ、授業をしよう!」という意欲を元気な笑顔で体全体で伝えていきましょう。

3 授業規律を大切にしながら毅然とした対応を!

授業を受ける学習集団をまとめるのが授業者の責任です。決められている学習のルール(必ず掲示!)を徹底させるため、毅然とした指導が大切です。

4 授業の目標(めあて)を明確に示しましょう!

その時間に何を学習するのか、何ができるようになったらゴールなのかを明確に示すことが大切です。授業の始めに必ず伝えましょう。

5 双方向の発問をできるだけたくさんしましょう!

講義形式で進む授業や一問一答方式の発問ばかりの授業では、児童生徒の学習意欲は低下し、コミュニケーション能力も育ちません。双方向で発問を膨らませていながら学習内容の定着を図っていく授業が児童生徒の理解を深め、コミュニケーション力の育成を図ることができます。

6 説明は「明確に」「短く」「具体的に」「スモールステップ」で

説明を聞くだけの授業では、内容が頭に入りにくいことは事実です。できるだけ短く、発問や活動を入れながら、具体物やICT機器を活用しながら、スモールステップで段階を踏んで説明をしていくことが効果的です。

7 児童生徒が活躍する場面をつくりましょう!

ペア学習やグループ学習、黒板に児童生徒が書く等の児童生徒が活躍する場面を設定することは、学習内容の定着に効果があります。主体的な学習を仕組みで、児童生徒の学習意欲向上を図りましょう。

8 具体的にしっかりほめましょう。

児童生徒の自尊感情の育成には、教師や周囲の人たちから、できたことを認められることが不可欠です。授業で意図的に認める機会を設け、児童生徒の自尊感情を高めていきましょう。

9 個別支援が必要な児童生徒の支援内容を準備しておきましょう!

教室の中には、一斉指導だけでは理解が難しく支援を必要とする児童生徒がいます。一斉指導の中での適切な個別支援を準備し、支援が必要な児童生徒も「この時間にこれができた!」という思いが持てるように、個別のめあて設定も必要です。

10 目標に沿ったまとめを行い、自己評価の場面をつくりましょう!

最初に提示した目標に立ち返り、学習内容をまとめて児童生徒がこの時間に学習した内容をどれだけ理解したかを自己評価し、「この授業ではここまでできた!」を実感できる場面を大切にしましょう。